



故きを温ねて、新しきを知る。帯広葵学園のあしあと

シンボルマークのじゆん

―帯広葵学園―

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

帯広葵学園全体の象徴として「AOI」のマークができたのは2015（平成27）年4月であった。それまでは、いわゆる学校で言えば校章のようなものは無かった。ただし、葵学園の旧名称である源照学園時代は、江戸幕府を仕切った徳川家の紋「葵の御紋」をアルバムなどには使用していた。それは、この幼稚園の始まりと関係する。詳しくは、学園通信70号を参照されたい。

さて、新「葵の御紋」であるが、製作者は他のマークと同じく奥野淳一氏である。氏によれば、AOIの「A」は、これからの幼児教育の発展を願って、流動的に、しかも時代に即応した鋭さを表すとし、その意味を含ませるために色は高貴な紫にしたと説明する。

AOIの「O」は、幼児教育の核としての存在を強調し、OBHIROの「O」を掛け合わせ、色は中核として強い思いを込めた赤にしたと説明する。

最後の「I」は、育ちゆく子どもたちの成長を象徴し、十勝・帯広の大平原と青空をイメージして緑と青を使用したと説明する。

帯広葵学園の職員には、この説明をよく読んでいただきたいと思う。そして、今一度「AOI」のシンボルマークを見てもらいたい。その上で、私たちは自分の毎日の仕事が「幼児教育の発展に寄与しているか」「子どもと真ん中の保育に徹しているか」、そして何よりも「子どもたちが上を向いて歩いて歩いているか」を問い直したいものだと思うのである。

学校法人 帯広葵学園

【シンボルマーク考案者】

奥野 淳一氏

1948年帯広市生まれ。帯広三条高、道教育大釧路校卒。十勝管内の小・中学校で勤務し、帯広第一中学校長で定年退職。つつじが丘幼稚園園長や市教委「心の教室」相談員を経て、2017年8月から帯広北高校を運営する帯広渡辺学園の理事を務めている。

